

西国海路御船数并配席図（徳山毛利家文庫 絵図 164）

移動 ⑥

徳山藩主の海路下向(2)

《西国海路御船数并配席図》

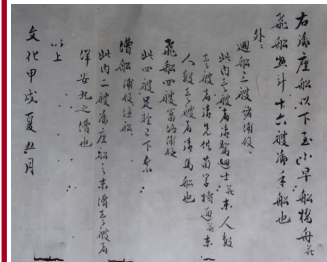
徳山毛利家文庫のシリーズのひとつである「絵図」の中に、「西国海路御船数并配席図」という資料があります(請求番号164)。幅27.8cm、長さ約16.5mの巻物で、これをひも解いて見ると、上の画像にある文章が冒頭に記されています(翻刻は裏面)。これによれば、文化11年(1814)夏、藩主が江戸から徳山に下向する際、大坂から海路を進む御座船(藩主乗船用の船)などを図示したもの、とあります。つまり、徳山藩第8代藩主毛利広鎮の海路下向で使用された船の図と言えます。そしてこの図は、今後、瀬戸内海を藩主が船で移動する際の参考とするものだ、とも言っています。文字だけではなく、図でも記録を遺す姿勢は、100余年ぶりに海路の利用を復活させるにあたり、過去の記録の探索に苦勞した人々の実感から出てきたものと言えます。

この資料には、まず「御座船大鵬丸御屋形并惣席図」が示されます(裏面)。これは船内の間取りを示した図で、藩主の

「御座間」などが描かれています。また、「板戸」や「障子」といった仕切りが色分けされています。この船には、御船奉行や大船頭・小船頭なども同乗していました。

この後には、御座船の「矢倉図」、「夜寝図」(船を上から見た図)、「簀板下荷積図」(米や味噌といった食料品や薪などの燃料の保管スペース)、が続き、御座船の外部はもちろん、内部構造の概要も窺えます。時には、上部構造がわかるような付箋も見えます。

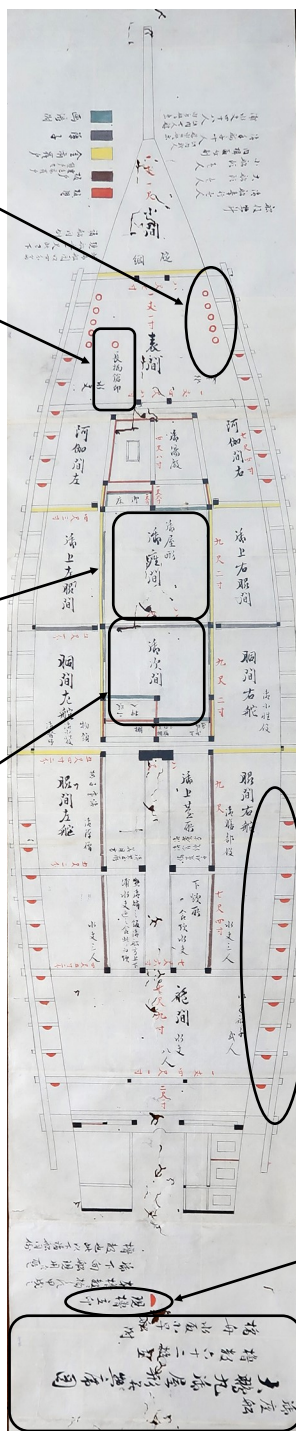
御座船のほかには、「御通船」など、「御座船」に随行した諸船の図が続きます。これらについては御座船よりも簡便な描かれ方で、内部の間取りや各区画のサイズが記されています。



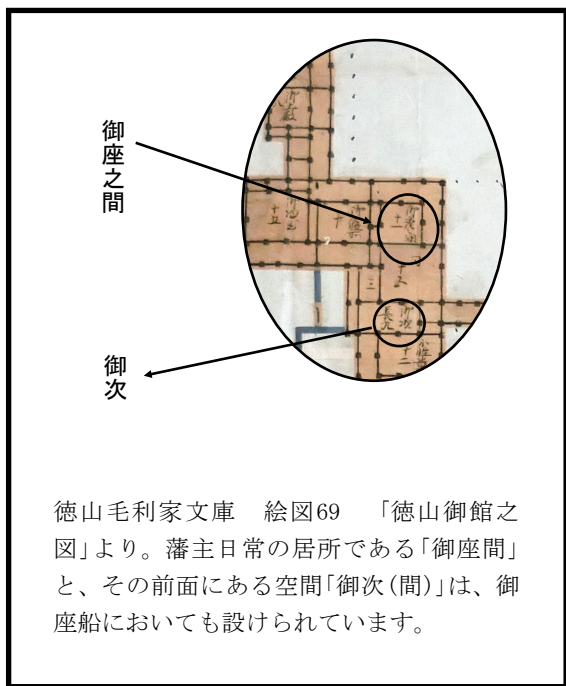
西国海路御船数并配席
(徳山毛利家文庫 絵図164)

上の画像は、この軸物の最後に書かれているものです。文化11年の海路下向に際し、御座船以下16艘が「御手船」とあります。そのほか、廻船3艘、飛船4艘、漕船2艘が従ったとあります。これらの船に身分や役割に応じて分乗したのでした。

赤丸は長柄鑓を並べたことを表しています



赤い半円は檣の位置を表しています



徳山毛利家文庫 絵図69 「徳山御館之図」より。藩主日常の居所である「御座間」と、その前面にある空間「御次(間)」は、御座船においても設けられています。

西国海路御船数并配席図
文化甲戌夏五月、
公駕從江府御下向至に大坂、西国路
海上御船被為召之所之御座船・御
供乗配席、御備道具立、諸荷物積
入及御附從之諸船其数間席等之
図如左、蓋此御船行者百余年之
御中絶御取興相成、前度之例記
或ハ詳ならず、此般御差略を以被定
もの茂多有之間、後年大坂御上下
宜凡用此例之旨ニより、諸図を例次して
閱便ニ供するもの也、若又諸船御供
乗配席・荷物等之事者、御船配
牒詳之と云、
政府御用懸役座識之

【表面翻刻】

御座船
大鵬丸御屋形并惣席図
檣数六十二艇立
附
橋船 水取小早船